

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原料科名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用 特記事項	感染症(PT)	出典	概要
1074	2008/03/24	71074	日本製薬	人血清アルブミン(20%) 加熱人血漿たん白 人血清アルブミン(25%) 人血清アルブミン(5%)	人血清アルブミン	人血液	日本、又は 現在製造し ていない	有効成分	有	無	無	C型肝炎	Clin Vaccine Immunol, published online doi:10.1128	0710711に同じ
												ハルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	0710711に同じ
1075	2008/03/25	71075	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	米国4州における2006-2007年のアデノウイルス血清型14(Ad14)に関連した急性呼吸器疾患に関する報告である。Ad14は稀にしか報告されないが、全ての年齢層の患者に重症で致死的な呼吸器疾患を起こす可能性がある。2006年5月にニューヨーク州で生後12日目の乳児がAd14感染により死亡し、07年3-6月にオレゴン州、ワシントン州およびテキサス州で計140名の感染患者が確認された。これらの患者から新規のAd14変異種が分離された。
												ウイルス感染	ProMED-mail20070930.3228	オーストラリアQueensland州で蚊が異常発生し、ロズリパーウイルスが拡大している。通常は北部の熱帯地域で優勢であるが、Brisbane南部における過去4週間の感染者数は、昨年(2006年)同時期のほぼ450%である。Queensland保健局の発表によると、過去4週間に報告された感染者数は93例であった。
												チクングニアウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2007; 26: 811-815	チクングニアウイルス感染が大流行したレユニオン島の5つの新生児医療部門で同ウイルスの母子感染を調べたため、後ろ向き記述的研究を実施した。母親は出産時に徴候があったか又は新生児が出生初日に発病したかをスクリーニングし、新生児38名を登録した。無症候の2名を除き、全母親が周産期(分娩4日前~1日後)に症状があった。全新生児が発熱(79%)、疼痛(100%)などの症状を示し、脳脊髄液のPCR法は24名中22名で陽性であった。高い罹患率の周産期母子伝播の可能性が初めて示された。
												チクングニアウイルス感染	Eurosurveillance 2007; 12(9): E070906.1	チクングニア熱は2005年以来、大規模な流行がインド洋諸島とインドから報告されているが、これまでヨーロッパ地域内での蚊による感染伝播は発生していなかった。2007年8月にイタリアのエミリア・ロマーニャ州ラヴェンナ県衛生当局は異常に多数の発熱患者発生を検知し、臨床・疫学調査を行った。血清学的検査およびPCR法でチクングニア熱と確定された。更にヒトシジミマカからもPCR法によりチクングニアウイルスが確認された。2007年9月4日までに合計197名の患者が報告されている。